

スポーツする子を支える力

今年はおリンピックイヤー。代表選手の多くは幼いころから競技を始め、現在に至っています。

しかし、スポーツを続けるには、周りのサポートがどうしても必要になります。

今回は、安城市から全国大会に出場する子どもの親と指導者から、子どもがスポーツをするための環境について聞きました。

水泳

坂口岳さん(指導者)



代表選手クラスのお子さんには、タイムや全国大会出場などの目標を達成するためには、どうすればいいのか、その道筋を示していく指導をしています。

また、欠点を見つけて理解させ、速くなる方法を指導しています。一般のお子さんには、楽しく、長く続けられるような指導をしています。時事ネタやお笑いネタを交えたり、遊びを取り入れたりしながら常にコミュニケーションをとっています。

伊吹由美さん(親)

現在、現在の教室に移籍する時、どうしても送迎に時間がかかるので、家事がおろそかになる事が不安でした。しかし夫は、子どものやりたいことを第一に考えてく



水泳の全国大会に出場する、左から、伊吹悠斗くん(小6／今本町)、岡田憲俊くん(小5／城南町)、岡田充弘くん(中1／城南町)

います。学校から帰ると、軽い食事をとらせて教室へ。自宅に帰ってから再び食事。お風呂に入らせて、10時には寝かせています。寝起きはともよいです。

岡田勝江さん(親)

上の子(充弘くん)は、記録が伸びず「やめたい」と言ったことがありました。その時は「自分で先生に直接言いなさい」と話しました。あくまでも本人の自主性に任せようと考えたからです。その後、リレーメンバーに選ばれ、「もう少しやってみよう」と言いつつ、今でも続けています。下の子(憲俊くん)は本当に水泳が大好きで、ほかの誘いには一切のりません。家族旅行や外食などはなかなかできませんが、本人たちが楽しくやっているの、その意志を尊重し、見守りたいと思っています。

卓球

小池尚子さん(親)

初めやる気がなかったのですが、少し年上の選手が刺激になったようで、自分もという気持ちになったのだと思います。卓球に打ち込むようになってからは、学校でもへこたれずに、やりたいことをやるべき時にやるようになります。人間的に強くなったと思います。

小林繁代さん(親)

学校から帰ってからは、遊んで宿題をやって食事をして卓球へ。帰ったらまた食事。お風呂に入らせてなるべく早く寝かせています。夫も応援してくれています。今では親よりも一生懸命卓球に打ち込んでいます。これから卓球を長く続けられ



卓球の全国大会に出場する、左から、小池雄太くん(小6／池浦町)、小林篤司くん(小4／横山町)、上田真実さん(小4／池浦町)、加藤結有子さん(小4／昭和町)

るように、いやにならないようにしていきたいですね。勉強はこつこつ努力していけばいいと思っています。

稲垣小夜子さん(祖母)

孫のことを考えて、1週間の

加藤真紀子さん(親)

うち1日は休ませて、早く寝かせています。卓球を始めたきっかけは小さいころに卓球教室に遊びに行ったことです。そのうち大好きになってしまいました。祖父母と父母の4人で応援していますので、ひとりの負担は少なく済んでいます。

先生からの食事指導を踏まえて、毎食栄養バランスなどを考えながら料理を作っています。以前は大垣市から通っていました。それでもやめたいとは言いませんでした。今は安城に引っ越して、夫が大垣まで仕事に行っています。これも子どものためと考えてのことです。夫も積極的に子どもを応援してくれています。これからも、子どもが卓球を楽しくやれるような環境を持続させてあげたいと思います。

村瀬勇吉さん(指導者)

わたしは短期間的な確かな指導を心がけています。練習自体は厳しくありません。教室では、「楽しければよい」「市内である程度のレベルに」「全国

取材を終えて

話を聞いて、皆さん競技を続けることはあくまでも子どもの自主性に任せ、いかに楽しくスポーツできる環境をつくるかを第一に考えているなと感じました。この姿勢が大切なんですね。(R)



を狙う」の3つに分類し、それぞれに合った指導方法をとっています。教室に来るお子さんはやる気がある子ばかりです。個人の實力は、階段状に伸びていきます。つまり、練習を積んでも伸びない時期があり、そうかと思えば、何かのきっかけで急激に伸びることがあります。なので、個人を型にはめず、それぞれの得意分野を伸ばそうというスタイルをとっています。